

未来につなぐまちづくり

自然と文化を活かした調和型のまちづくり



小川町は、都心から約 60 km 圏という立地に恵まれ、美しい山々に囲まれた緑豊かな自然や先人から受け継がれてきた歴史文化、世界に誇る伝統産業が生き続ける町です。

町では、平成 10 年に、町が行う様々な都市計画の指針となる「小川町都市計画マスタープラン」を策定し、「中心性をいかしたまちづくり」「地域の特性をいかしたまちづくり」「地域の連携によるまちづくり」を理念としながら様々な取組を進め、平成 27 年 2 月に合併 60 周年を迎えました。

計画策定後、人口減少・少子高齢化の進行、東日本大震災の発生に伴う安全・安心社会への要請の高まり等、社会情勢が大きく変化しているとともに、都市計画法の改正や関連法令の制定等、時代の課題・要請に合わせ法整備が進んでいます。本町においては、関越自動車道の嵐山小川 IC の整備や本田技研工業株式会社の小川エンジン工場の立地、県道熊谷小川秩父線バイパスの開通等により町の都市構造が変化してきており、新たな課題等に対応する必要性が生じてまいりました。

このような背景を踏まえ、このたび、まちづくりの理念を「未来につなぐまちづくり」「自然と文化を活かした調和型のまちづくり」とした、今後 20 年間を見据えた「小川町都市計画マスタープラン」を策定いたしました。

未来に向けたまちづくりにあたり、本町の魅力を継承し、最大限活かすことが重要と考えます。さらに、町民一人一人が主体的かつ自発的にまちづくりに参加することで、郷土への愛着を深めながら、若者から高齢者までがともに手を携え、持続可能な地域の形成の実現を目指します。

今後も町民の皆様とともに、将来像の実現に向けて、邁進してまいりたいと考えています。

本計画の策定にあたり、町民の皆様には多大なるご協力をいただき、町議会や都市計画審議会から多くの貴重なご意見を賜りましたことを深く感謝申し上げますとともに、今後におきましてもより一層のご理解とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成 28 年 3 月

小川町長

松本恒夫